

おおたま学園コミュニティ・スクール便り

令和3年3月16日発行 No.27 おおたま学園コミュニティ・スクール委員会
(事務局：大玉村教育委員会内 連絡先：48-3138)



第2回コミュニティ広場(第12回教育フォーラム)を開催しました ～ YouTube配信 ～

本年度は、コロナ禍のため、第2回コミュニティ広場を「YouTubeによる配信」という形で実施し、2月20日(土)から28日(日)までの期間中、各小・中学校の発表を保護者及びその家族、CS委員、教職員、村地域学校協働活動推進会議委員等の皆様方に限定して見ていただきました。

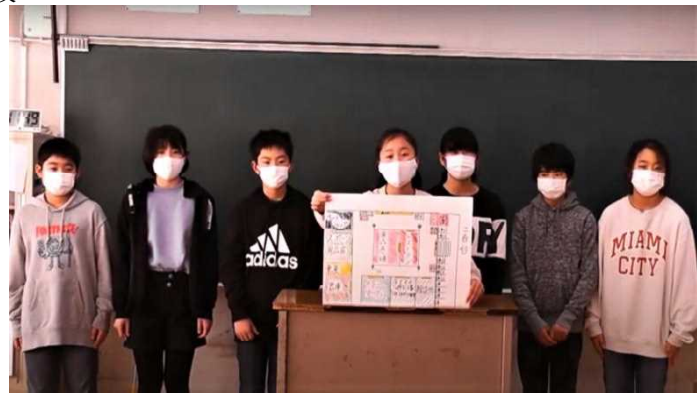
内容は、子どもたちが総合的な学習の時間等での学びを通して、ふるさと大玉村について感じたことや考えたこと、大玉村の魅力やこれからの大玉村をどのようにしていきたいか等についての発表でした。

今号ではその概要とアンケート集計結果をお知らせいたします。

【小・中学生の発表(提案)の概要】

1 大山小学校発表より 「これからの大玉村づくり～人にやさしい大玉村～」

- (1) 大人が働く場所を増やす～誰でも働ける「幸せいっぱいセンター」をつくる
 - 営業時間8時～23時、ロボットによる案内・荷物運びサービス(外国語対応)、便利棚(高所から簡単に物が取れる仕組み)、フリーマーケット<毎週日曜日8時～18時>、子育て等相談所、食堂<お米料理[オムライス、カレー、米粉パン、おにぎり、お弁当等]、マチュピチュ料理等>他)
- (2) 「農業学校」をつくる(地域住民が農業を学べる場)
 - 開校時間4時～21時：自分が行きたい時間に行き行って学べる<園芸、野菜づくり等>。取れたての野菜等を使って家庭科室で調理<2週間に1回料理教室を開く>、図書室等
- (3) 子どもが楽しめる本屋「レインボー」(カフェ「エール」を併設)
 - キッズルーム(幼児教室開催)…きびだんご作り、料理教室(毎月開催、カフェのメニューとしても提供される)
 - 季節に合わせたイベントを開催(ゆったりとした図書室の一角で)…2月：節分、7月：七夕
 - 広い通路、点字ブロック、棚の出っ張りを少なくして体の不自由な人が利用しやすいように工夫
- (4) その他
 - 造りたい施設等…子どもが楽しく遊べる運動場、誰もが笑顔で集う図書館と食堂、福祉のサポートが充実したホテル、お年寄りが安心できる福祉施設



2 玉井小学校発表より 『本揃田植え踊り』から見た、わたしたちのふるさと大玉村

- (1) 田植え踊りについて
 - 始まったのは300年前。笛、太鼓に合わせた踊りは稲作の過程を表している。豊作祈願や厄払いの

ため踊っていた。昭和30年頃からほとんど行われなくなったが昭和49年に保存会の方々が復活させた。玉井小は平成24年から教わっている。(今年が9年目)

- (2) 田植え踊りの役について
 - 踊り手…久六、奴、早乙女、きつね、ひょっとこ ・ 囃し手…唄、笛、太鼓
 - 5年生…すぐには覚えられなかったが、6年生や保存会の方々に教わってできるようになった。
- (3) 本揃田植え踊りを学習して
 - 昔の人たちの強い思いが分かり、大玉村への思いが強くなった。(伝統を引き継いでいきたい。大玉村がもっと栄えてほしい。もっと多くの人に村産の米を食べてもらいたい。)
 - 自分たちができることを考えるようになった。(田植え踊りを引き継ぐ<下の学年に>。伝統が絶えないようにする。)
 - 田植え踊りを多くの人に知ってもらおう努力をする。(製作したメッセージビデオを成人式の際に流してもらう。高齢者施設で披露させてもらう。学習発表会で多くの人に見てもらえるようポスターを作って店に貼ってもらう。)
 - 大玉村の未来(農業が盛んで品質の良い農産物<米、野菜、果物>がたくさん獲れる村、日本を農業で支えられるような村、景色<ex.田んぼ、安達太良山>のきれいな村としてさらに有名になってほしい!)

3



より 「大玉未来プロジェクト～大玉の農業や自然環境を守るために～」

- (1) 「米レシピ」チームの発表【プロジェクト名：マイ・マイ・ナイス・ライス(米 米 Nice Rice)】
[大玉の美味しい米を全国、世界に届けたい! 10年後には「美味しい米と言えば大玉村」に!]
 - 大玉の米の美味しさを知ってもらうために、オリジナルスイーツレシピ(クッキー、カップケーキ、ババロア等)を考案する。
 - 米粉のレシピをネット、ポスター、リーフレット等で発信(PR)する。
 - 世界の飢餓をゼロに! → 大玉の米を世界に届ける
- (2) 「ネット販売」チームの発表【特産品を手に入れるのはあなたの番です!】
[大玉の米の美味しさを日本全国の人に知ってもらいたい!]
現在のネット販売の問題点(品数が少ない、オンラインショップを知っている人が少ない等)を改善
 - 米のネット販売→10kg、30kgで販売 *売れ残りは貧困地域へ送る→飢餓を救うことに!
 - 定期便を開始する(お得感やメリットをPRする。定期便限定の商品)
 - みちのくの里オンラインショップを多くの人に知ってもらうためにCM広報活動をする。
- (3) 「食品ロス」チームの発表【食品捨てたら倍返しだ!】
[食品ロスを減らすために大玉村に住む私たちが何かできないだろうか]
 - 食品ロス…日本は世界ワースト6位(アジアで1位)
 - 大玉村の飲食店で工夫=ロスが出ないよう最低限の食材を準備、野菜の皮や芯をソースに利用
 - 学校給食の残飯を調査(1週間分)
→ まずは身近な所から取り組む 「給食残をゼロに!」
 - 余分な生産物を貧困地域に送り役立てる(美味しい大玉の米が捨てられず世界を救うことになるのは素敵なこと)

○ 村全体で食品ロスを減らす取り組みを行う。 世界を救う大玉村に！

(4) その他

「農業後継者・イベント」チーム

○ 大玉村の農業への取り組みをPRすることで興味をもってもらい、農業後継者を増やす。

→ 特産品紹介（パンフレット） ・農業体験 ・試食会 ・お米スイーツ販売

「エネルギー問題」チーム

○ 自然エネルギーの活用推進（太陽光発電のメリット<電気料軽減、余った電気を売電、安価な初期費用、故障しにくい等>）

「環境問題」チーム

○ 村の良い点、課題を明確化

→ 化学肥料を減らし有機肥料を増やす等様々な工夫がなされている。ゴミ問題、きれいな水・空気・土壌を守る努力等に取り組んでいく必要がある。（自然豊かな大玉村を守るために）



「私たちの目指す大玉村」＝地域のおさを残しつつ、無理なく発展して、地球に優しい大玉村

アンケートの集計結果（概要）について

※ 回答者…60名（CS委員10、教職員45、その他5）

1 小・中学生の発表（プレゼン）について

○「とてもよい」73% ○「よい」27%

<主な感想>

○ 小学生も中学生も、自分たちにできる発表の仕方を工夫して行っていた。また、発想も素晴らしかった。思いがとても伝わった。

○ 自分たちのふるさとのためにどんなことができるかを考え、話し合い、発表に向けていかに取り組みを進めてきたかが想像できる素晴らしい発表であった。SDGsなど現在、そして未来に求められていることを視点の一つとしてもっているところにも感心させられた。

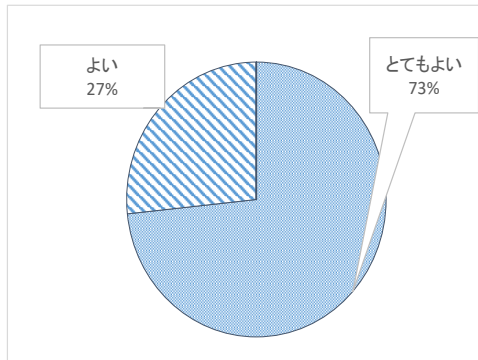
○ 自分たちで相談し、考えを出し合い、企画・PRしていくことを小学生のうちから行っていくことはとても大切だと思います。小学生から中学生へ成長した姿も感じられました。

○ 各学校で時間のない中、良く準備できていたと思います。

○ 小・中学生の立場から考えた提言は、今後の村づくりを進める上でとても重要である。今回の提言を一つでも実現してあげることが、子どもたちの「ふるさと大玉村への思い」をさらに強くすることにつながると思う。

○ 工夫されていた。大山小の寸劇型はとても見やすかった。玉井小の発表も、自分たちの身近な文化を深く学ぼうとする気持ちが感じられた。中学生は現実的なプランを示していて、よく考えられていた。

○ 子どもたちが頑張って考え、工夫して、パソコンも操作して、発表する過程が想像できました。豊かな自然、米などの農産物、伝統を守る等田舎ならではの良さを伝えようとする視点に感動しました。



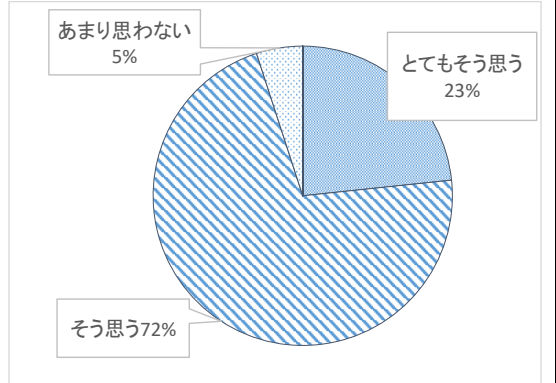
○ 映像も流れも工夫され、音楽などもとても良かったと思います。入りやすく（見てみたいという思い）になり、子どもも最後まで見ていました。他校の発表も「○○ちゃんだ！」と楽しんでいました。発表の内容も、提案内容が具体的で本当に大玉村の事を考えていることが伝わってきて素晴らしかったです。

2 今日の発表を聞いて、大玉村のために自分でも何かやってみたいと思いましたか。

○「とてもそう思う」23% ○「そう思う」72% ○「あまり思わない」5%

<やってみたいこと（魅力を生かすために、課題を克服するために、学校と地域と一緒に等）>

○ 子どもたちが考えることを実現するために何か協力できればと思います。SDGsの視点からも考えて取り組んでいくことが大切だと思います。10年後、20年後の子どもたちのために…と考えます。コロナ禍の中、なかなか難しいこともありますが、ネットを使うことも考えていけます。まずは中学生が考えていた、大玉村の特産であるおいしいお米をPRすべく、米粉を使ったスイーツ販売を実現することだと思います。



○ 提案を村内の関係機関や大人に聞いてもらい、講評をもらう。

ほめていただけるのはありがたいが、辛口で、もっとこうした方がよいなどの厳しいアドバイスももらえると、次の課題を見つけることができ、探究的な学習が深まると思う。一度の発表で終わるのではなく双方向のやりとりがあるとよいと思う。

○ 中学校の教員という立場から言うと、「口だけでなく、理想を語るだけでなく」行動していく生徒を育てたいと思う。

○ 地域人材を活用した授業づくりや交流活動の企画・運営、美しい村、住みやすい村にするためのゴミ拾いやイベントの手伝い、大玉のお米をPR

○ 村内企業（おおたま村づくり株式会社等）、地域団体と協力しながら活動できれば、少しずつ課題が克服できるのではないと思う。また、協力していきたい。

○ 村外の方に大玉村の農業を説明する時に本揃田植え踊りという昔から受け継いできた伝統も含めて伝えたい。また、大人では気づかない視点がたくさんあったので交流会やワークショップを行って意見交換したい。

3 今後のCSとして取り組んで欲しいテーマ、「コミュニティ広場」を視聴しての感想等

(1) テーマ

- ・大玉村の魅力
- ・大玉村の素晴らしさを発信する方法
- ・大玉村にある企業や産業など
- ・大玉村で推進しているSDGsについて
- ・メディア・コントロールについて
- ・大玉村の歴史、お年寄りとの交流、子どもたちの交流（ワークショップ）など
- ・幼・小・中共通のテーマ → 例：「早寝・早起き・朝ごはん」「携帯やゲーム」
- ・もう少し絞ったテーマ（細かなテーマ）、毎年違うテーマで
- ・大玉村に限らず、子どもたちが現在興味・関心があることについて自由に取り上げて発表する（広い視野から）

(2) 全体的な感想

○ 今年はコロナ対策のため、動画配信という新しい試みで準備等大変だったかと思います。しかし、子どもたちも落ち着いて発表できており、こちら時間も見つけて落ち着いて発表を視聴することができとても良かったです。発表してくれた児童・生徒の皆さん、準備を進めてくださった皆さん、ありがとうございました！

○ コロナ禍の中、どのようにコミュニティ・スクールを実施していけばいいか模索され、このような形での発表の場を提供いただき、ありがとうございました。従来とは違う視聴者を獲得できる、新たな取り組みだと思います。